

令和7年度（R7年4月～R8年3月）学校評価

◇ 評価点は、I～IXのカテゴリーごとと各項目を、〔3：あてはまる 2：ややあてはまる 1：あてはまらない〕と採点し、その平均点として表したものである。各カテゴリーの点検内容については別紙公開の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参照。

カテゴリー・項目数	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念・教育目的 (11項目)	評価点〔3.00〕 関連法規を遵守し、設置目的をふまえて理念・目的を明示している。98%の学生が共有できていると回答し、学習の指針になっている。変化する入学生の特性とカリキュラムポリシーの整合性は継続して検討する必要がある。また、卒業時に持つべき資質の保障として、卒後の動向も注視していく。	評価点〔3.00〕 自己評価の内容を承認
II 教育目標 (7項目)	評価点〔3.00〕 ディプロマポリシーを教育目標に置き換え明示している。3年間で段階的に目標をもって学習できるよう、ディプロマポリシーとの繋がりがわかる学年別到達目標を提示している。学習内容と年次別到達目標の整合性の点検を継続して行う。学習意欲向上をねらいとして、カリキュラムマップ等イメージ化も検討する。	評価点〔3.00〕 学生が何のために学んでいるのか、目指す姿が見えることは重要。カリキュラム全体のイメージ化は効果があるものと考え期待している。基礎教育での学びの様子がわかることは、その後の、臨床の新人教育にもつながるものになる。
III 教育課程経営 (31項目)	評価点〔2.97〕 ナイチンゲールの看護理論を教育の基盤に起き、講義・演習科目・臨地実習を関連させた進捗になるよう構成し教授活動を行っている。R7から実習施設増加に伴い、教員の分散、学内不在時間が増加した。授業準備のための時間確保に影響している。学習内容の精選・方略の検討に加え、実習指導者との連携により、指導体制の充実を図った。実習指導者による有効な支援が得られるよう、指導体制の調整に取り組んでいく。	評価点〔2.97〕 教員の授業準備に係る時間の確保について、臨地実習において、臨床側がもっと協力できる工夫があるかもしれない。時間の確保のためには、従来のやり方にとらわれない、柔軟な考え方で対応する必要がある。
IV 教授・学習・評価過程 (17項目)	評価点〔3.00〕 教育理念から単元の指導目標まで一貫性のあるもので展開し、学生からの評価も参考に、教員同士のカリキュラム評価で日々改善に取り組んでいる。学習状況から、現行カリキュラムを評価し、内容・授業方略・単位数・時間数の見直しを行った。講義資料の配信、課題提出等のデジタル化を進めると同時に、情報リテラシー教育の強化は、学生も変化するため、継続して実施する必要がある。 実習評価表の見直しは、次年度も継続して取り組む。	評価点〔3.00〕 自己評価の内容を承認
V 経営・管理過程 (36項目)	評価点〔2.92〕 安定した教育力維持のため、計画的に研修会受講を進めた。中堅期教員のマネジメント力向上は、今後強化が必要である。施設の経年劣化に対し、EVの改修を完了した。R8は屋上防水、外壁改修を計画しており、安全な教育環境の提供に努める。 合理的配慮を必要とする学生の対応について、ガイドラインを完成させた。 将来構想については、静岡市全体の方針を踏まえ、関係部署	評価点〔2.92〕 学生生活の支援の視点で、合理的配慮を必要とする事象が発生した場合、臨床と学校の綿密な連携が必要になる。有効な情報共有、指導方略の一致など、特に直接指導に係る指導者との丁寧な連携を図って対応してほしい。
VI 入学 (2項目)	評価点〔3.00〕 入学者数は定員を割った。入学後の状況はGPAも回復し、入学者選抜方法の妥当性は担保されている。R8年度入学希望者は、推薦・一般ともに増加した。辞退率が41%に留まり、定員数確保できている。専門学校ならではの魅力、本校の特徴をアピールし、差別化が図れる募集活動の工夫を図る。	評価点〔3.00〕 女子学生が多い中、今年度は男子学生が4名と多く入学してくれた。性差なく、すべての学生が学びやすい工夫・配慮を今後も継続してほしい。
VII 卒業・就業・進学 (8項目)	評価点〔2.75〕 看護師国家試験の合格率は17年連続100%であり、卒業時の教育水準は維持できている。全員が就職内定し、内31名(86%)が市内に就業予定である。 卒業1年時点のアンケート調査(Web)の回収率は48.7%(前年比-9.2%)だった。回収率の改善と統計的整理は今後の課題である。HomeComingDayの広報活動も強化し、卒業生の活動状況の情報収集に努める。	評価点〔2.75〕 自己評価の内容を承認
VIII 地域社会／国際交流 (10項目)	評価点〔2.80〕 地域・在宅看護論の授業を通じた、地域との交流が定着してきている。トロペーWeekの協賛も地域のニーズに応える活動として効果的であったため継続する。 国際交流の点で、幅広い観点で学習できるよう、教材の充実を図っていく。	評価点〔2.80〕 自己評価の内容を承認
IX 研究 (3項目)	評価点〔2.33〕 R6年度実施の研究1例を、看護教育学会にて発表した他、共同研究者として取り組んだ教員がいる。研究構想の萌芽段階にいる教員もいるため、教員全体の理解と協力により、研究活動の時間確保、支援を行う。	評価点〔2.33〕 自己評価の内容を承認

◇ 学校関係者評価会議 令和8年4月22日 本校会議室で開催

委員長 平野 一美 (公益社団法人静岡県看護協会常務理事)
副委員長 間淵 元子 (医療法人社団宝徳会小鹿病院看護部長)
委員 朝比奈ひろみ (地方独立行政法人静岡市立静岡病院副看護部長)
委員 岩井 孝仁 (静岡市立静岡看護専門学校後援会会長)

事務局
松永 貴子(副校長) 突田 一(事務長)
宮田 芳衣(教務長) 矢野 玲枝(技監)
瀧 泉(教務主幹) 杉山 加苗(教務主幹)
脇田 由紀子(教務主幹)